

(様式第 10)

分大医総病第 40 号
平成 29 年 10 月

厚生労働大臣

殿

国立大学法人大分大学長

開設者名

北野正剛

大分大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地
氏 名	国立大学法人大分大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大分大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地	電話(097)549-4411
----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科		
②消化器内科		
③循環器内科		
④腎臓内科		
⑤神経内科		
⑥血液内科		
⑦内分泌内科		
⑧代謝内科		
⑨感染症内科		
⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科		
⑪リウマチ科		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科		
診療実績		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科		
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腫瘍内科 2児童精神科 3神経小児科 4形成外科 5病理診断科 6リハビリテーション科 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	0床	0床	0床	588床	618床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	395人	34人	405.9人	看 護 補 助 者	27人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	9人	1人	9.0人	理 学 療 法 士	9人	臨床検査技師	52人
薬 剤 師	30人	0人	30人	作 業 療 法 士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	1人	0人	1人	視 能 訓 練 士	5人	そ の 他	3人
助 産 師	21人	0人	21人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	640人	23人	658.3人	臨 床 工 学 士	18人	医療社会事業従事者	0人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	6人
歯 科 衛 生 士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	173人
管 理 栄 養 士	8人	0人	8人	診 療 放 射 線 技 師	35人	そ の 他 の 職 員	48人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	25人	眼 科 専 門 医	13人
外 科 専 門 医	35人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	12人
精 神 科 専 門 医	9人	放 射 線 科 専 門 医	16人
小 児 科 専 門 医	14人	脳 神 経 外 科 専 門 医	12人
皮 膚 科 専 門 医	6人	整 形 外 科 専 門 医	12人
泌 尿 器 科 専 門 医	12人	麻 酔 科 専 門 医	18人
産 婦 人 科 専 門 医	15人	救 急 科 専 門 医	6人
		合 計	205人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (門 田 淳 一) 任命年月日 平成29年10月 1日

平成17年4月～平成28年3月 感染制御部長
 平成17年4月～平成28年3月 感染予防対策委員会
 平成17年4月～平成21年4月 メディカル・リスクマネジメント委員会

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	504.5 人	8.7 人	513.2 人
1日当たり平均外来患者数	963.1 人	45.8 人	1,008.9 人
1日当たり平均調剤数			1,838.9 剤
必要医師数			111.217 人
必要歯科医師数			5 人
必要薬剤師数			23 人
必要(准)看護師数			291 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
集中治療室	236.08 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	8床
			人工呼吸装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無
			心電計	有・無
			心細動除去装置	有・無
			ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 81.71m ² [移動式の場合] 台数 19台		病床数	8床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 45m ² [共用室の場合] 共用する室名			
化学検査室	220m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置 など	
細菌検査室	148m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養自動分析装置	
病理検査室	139m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動免疫染色装置 など	
病理解剖室	283m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台 など	
研究室	4,545m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン, 顕微鏡 など	
講義室	1,635m ²	鉄筋コンクリート	室数 11 室	収容定員 1,495 人
図書室	1,703m ²	鉄筋コンクリート	室数 13 室	蔵書数 102,720 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.5 %	逆紹介率	71.6 %
算出根拠 A: 紹介患者の数			9,675 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9,177 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			897 人
抛 D: 初診の患者の数			12,816 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
井上 敏郎	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
岡村 邦彦	岡村法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者 その他医療従事者以外の者	有・無	2
小野 克重	大分大学		学長が必要と認める者	有・無	3
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
医学部附属病院のホームページにおいて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0人
自家液体室素処理骨移植	0人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	12人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	17人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺癌	0人
FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断	0人
放射線照射前に大量メトキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法 並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	1人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	超音波気管支鏡ガイド下経気管支リンパ節生検(EBUS-TBNA)	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 先端に超音波発信器が付属された超音波気管支鏡を用いて、気管・気管支の深層にあるリンパ節をエコーガイド下に穿刺吸引生検、診断を行う。			
医療技術名	超音波プローブおよび気管支鏡ナビゲーションシステム補助下経気管支肺生検	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 ナビゲーションシステムを用い、病巣との関与が考えられる気管支を同定、気管支鏡検査時間の短縮を図る。ナビゲーションの結果を参考としつつ、超音波プローブを用いて標的病変に確実に的中させ、ガイドシースを留置、同病変からの繰り返し生検を行えるようにする。			
医療技術名	気管支サーモプラスティ	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 気管支鏡に電極付きのカテーテルを挿入し、高周波電流で気管支壁に熱を加えることで、喘息の原因となる肥厚した気道平滑筋の量を健康人に近付け、気管支の収縮を抑制し、発作を起きにくくする。			
医療技術名	超肥満患者や内因性インスリン分泌不良糖尿病肥満患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術+十二指腸空腸バイパス術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 肥満患者や内因性インスリン分泌不良糖尿病肥満患者を対象として、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術+十二指腸空腸バイパス術(胆膵バイパス術)の安全性と有効性を検討する。			
医療技術名	中等度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 コントロール不良な肥満健康障害を有する中等度肥満症(BMI<35kg/m ²)患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の安全性と有効性を検討する。			
医療技術名	Squid captureを用いたIn-situ fenestrationによる血管内治療での弓部大動脈再建術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 全身状態不良患者さんの弓部大動脈瘤に対して大動脈内でステントグラフトに枝を作成し弓部大動脈再建を行う。			
医療技術名	胸腹部大動脈瘤に対する腹部分枝バイパスを併用した非開胸ステントグラフト治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 全身状態不良な患者さんの胸腹部大動脈瘤に対して腹部4分枝を人工血管でバイパスしたのちにステントグラフトを挿入して治療する。			
医療技術名	自己心膜を用いた大動脈再建術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 大動脈弁疾患の患者さんに対して人工弁を用いずに自己心膜をグルタールアルデヒドで固定したものでリーフレット(弁葉)を作成し、それを用いて大動脈弁再建する手術			
医療技術名	左開胸による多枝冠動脈バイパス術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 正中切開をせず左胸小切開により2枝以上の冠動脈バイパスを行う低侵襲手術			
医療技術名	右腋窩切開による大動脈弁置換術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 正中切開を行わず右腋窩小切開にて行う大動脈弁置換術			

医療技術名	胸腹部大動脈に対するfenestrated graftを用いた完全血管内治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ランディング部位のない通常のデバイスでは適応とならない胸腹部大動脈瘤に対して穴の開いたステントグラウトと枝グラフトを用いて開胸、開腹することなく血管内治療だけで治療する手技			
医療技術名	腹腔鏡下副腎摘除術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 炭酸ガスで気腹を行い、開腹は行わず内視鏡および操作用の鉗子類を腹腔内または後腹膜腔内に挿入して主に副腎腫瘍を摘除する手術である。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎髓質腫瘍切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 炭酸ガスで気腹を行い、開腹は行わず内視鏡および操作用の鉗子類を腹腔内または後腹膜腔内に挿入して主に副腎髓質腫瘍を摘除する手術である。			
医療技術名	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術	取扱患者数	44人
当該医療技術の概要 炭酸ガスで気腹を行い、開腹は行わず内視鏡および操作用の鉗子類を腹腔内または後腹膜腔内に挿入して主に腎腫瘍を摘除する手術である。			
医療技術名	腹腔鏡下移植腎採取術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 炭酸ガスで気腹を行い、開腹は行わず内視鏡および操作用の鉗子類を腹腔内または後腹膜腔内に挿入して主にドナー腎を採取する手術である。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 炭酸ガスで気腹を行い、開腹は行わず内視鏡および操作用の鉗子類を腹腔内または後腹膜腔内に挿入して主に膀胱を摘除する手術である。			
医療技術名	ロボット支援腎部分切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 ロボット支援下にて、炭酸ガスで気腹を行い、開腹は行わず内視鏡および操作用の鉗子類を腹腔内に挿入して主に腎部分切除をする手術である。			
医療技術名	ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 ロボット支援下にて、炭酸ガスで気腹を行い、開腹は行わず内視鏡および操作用の鉗子類を腹腔内に挿入して主に前立腺悪性腫瘍を摘除する手術である。			
医療技術名	悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対してセンチネルリンパ節生検を行うことにより、リンパ節転移の効率的な検索をおこなう。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	73
2	筋萎縮性側索硬化症	54	57	特発性拡張型心筋症	34
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	32
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	17	60	再生不良性貧血	23
6	パーキンソン病	102	61	自己免疫性溶血性貧血	4
7	大脳皮質基底核変性症	13	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	64
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリイ・トゥース病	4	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	72	66	IgA腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	0
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	57	68	黄色靱帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	17	69	後縦靱帯骨化症	17
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	10
17	多系統萎縮症	23	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	62	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	3	75	クッシング病	6
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	31	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	4
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	1	83	アジソン病	3
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	174
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	73
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	3
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0
34	神経線維腫症	3	89	リンパ管筋腫症	4
35	天疱瘡	6	90	網膜色素変性症	4
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	4
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	4
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	72
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	4
40	高安動脈炎	0	95	自己免疫性肝炎	49
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	47
42	結節性多発動脈炎	15	97	潰瘍性大腸炎	90
43	顕微鏡的多発血管炎	17	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	10	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	2	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	18	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バーシャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	283	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	106	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	15	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	30	107	全身型若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	231	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	24	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	13	167	マルファン症候群	10
118	脊髄髄膜瘤	4	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシビタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モフット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウイリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	1
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウイリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	3	194	ソトス症候群	3
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	3
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	1
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	1
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	7	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	3	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	14	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	3	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	2
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	7	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	6
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	7
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	9	274	骨形成不全症	2
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	10	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	7	277	リンパ管腫症/ゴーンハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	2	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	11
244	メーブルシロップ尿症	1	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	1	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	7
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	6
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	7

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	1	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	3	321	非ケトーシス型高グリシン血症	1
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	2	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	3
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	14
318	シトリン欠損症	1	330	先天性気管狭窄症	7

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救命救急入院料3
・歯科外来診療環境体制加算	・特定集中治療室管理料2
・歯科診療特別対応連携加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・特定機能病院入院診療基本料(一般病棟7対1)	・小児入院医療管理料2及びプレイルーム加算
・特定機能病院入院診療基本料(精神病棟15対1)	・
・超急性期脳卒中加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・医師事務作業補助体制加算1(30対1補助体制加算)	・
・急性期看護補助体制加算3(50対1)	・
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算2)	・
・看護補助加算1(精神病棟のみ)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算1及び地域連携診療計画加算	・
・精神疾患診療体制加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・高度難聴指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・喘息治療管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・糖尿病合併症管理料	・神経学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料1	・ロービジョン検査判断料
・がん患者指導管理料2	・コンタクトレンズ検査料1
・がん患者指導管理料3	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来緩和ケア管理料	・内服・点滴誘発試験
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)	・画像診断管理加算2
・糖尿病透析予防指導管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ニコチン依存症管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・冠動脈CT撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・外傷全身CT加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・心臓MRI撮影加算
・薬剤管理指導料	・乳房MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1(歯科診療以外)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料2(歯科診療以外)	・外来化学療法加算1
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・無菌製剤処理料
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・国際標準検査管理加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)及び初期加算
・遺伝カウンセリング加算	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・精神科作業療法
・胎児心エコー法	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・医療保護入院等診療料	・体外衝撃波胆石破碎術
・透析液水質確保加算1	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術(Ⅱ区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・体外衝撃波膵石破碎術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・羊膜移植術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・同種死体腎移植術
・網膜再建術	・生体腎移植術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・膀胱水圧拡張術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び加算2	・人工尿道括約筋植込・置換術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・内視鏡下筋層切開術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・輸血管理料 I
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術	・麻酔管理料(I)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・麻酔管理料(II)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・放射線治療専任加算(歯科診療以外)
・補助人工心臓	・外来放射線治療加算(歯科診療以外)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・高エネルギー放射線治療

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・光トポグラフィー(抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用するもの)	・
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・
・羊膜移植術	・
・内視鏡下筋層切開術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	15回
剖検の状況	剖検症例数 16例 / 剖検率 8.8%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	肥満症とメタボリック症候群における新規ストレス関連脳内因子の解析	正木 孝幸	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
2	低分化型胃癌における遺伝子異常の網羅的解析	村上 和成	消化器内科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
3	緑膿菌性肺感染症の新しい制御戦略-抗原刺激成熟樹状細胞の移入によるワクチン開発	門田 淳一	呼吸器・感染症内科学	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
4	RNAiを用いた緑膿菌バイオフィルム感染症に対する新しい治療戦略	平松 和史	医療安全管理部	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
5	表皮角化細胞のPPAR α 低下は、アトピー性皮膚炎の誘導と悪循環に関与する。	波多野 豊	皮膚科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
6	ナノ炭素複合素材と電界紡糸技術を用いた高生体適合性細径カバードステントの開発	本郷 哲央	放射線医学	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
7	水溶性ビタミンE誘導体の脳保護作用の検討(スピン共鳴解析を用いて)	北野 敬明	麻酔科学	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
8	敗血症性ショックの機序の解明とリアルタイム測定によるビタミンC補充療法の確立	松本 重清	麻酔科学	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
9	新規抗酸化物質ETS-GSを用いた次世代脳保護薬の開発	古賀 寛教	手術部	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
10	尿道組織における細胞外マトリクスが尿禁制に及ぼす機能的、形態学的検討	住野 泰弘	腎泌尿器外科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
11	樹状細胞を標的とした経鼻ワクチンの臨床応用に向けた研究	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
12	Toll様受容体アゴニストを用いた上気道粘膜免疫誘導と機序の解明	鈴木 正志	耳鼻咽喉科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
13	扁桃周囲膿瘍発症機序解明と予防戦略の確立	渡邊 哲生	耳鼻咽喉科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
14	マイクロRNAを標的とした新しい心筋保護治療の構築	手嶋 泰之	検査部	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
15	口腔扁平上皮癌に対するインテグリン機能を標的とした浸潤・転移抑制療法の確立	河野 憲司	歯科口腔外科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

16	家族性弾性線維腫の遺伝子解析、肩運動との関連を求めて	藤原 作平	皮膚科学	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
17	肥満に高率に合併する心房細動の抑止に向けてレプチンを標的とした新たな治療法	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
18	肥満を伴う認知症予防における、脾臓IL-10合成能及び門脈血GLP-1の重要性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
19	コケイン症候群における転写調節異常と神経細胞の分化・維持機構への影響	橋本 悟	臨床薬理学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
20	腎不全時の降圧治療の個別化を目指した新規バイオマーカーMR-proADMの開発	伊東 弘樹	薬剤部	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
21	糖尿病における洞結節機能障害発生メカニズムの解明	篠原 徹二	循環器内科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
22	組織所見、音叉検査、遺伝子多型からみた抗がん剤による末梢神経障害の発現予測の検討	白尾 國昭	腫瘍・血液内科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
23	劇症型アニサキス症の病態形成機構の解明と原因分子の同定	水上 一弘	消化器内科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
24	Leigh脳症におけるミトコンドリア選択的オートファジー活性の検討と治療応用	宮原 弘明	小児科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
25	エピプラキンの遺伝子の多様性と低分子化機構	石川 一志	皮膚科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
26	微量なりチウムの抗自殺作用：自殺企図患者の血中リチウム濃度を指標とした研究	塩月 一平	精神科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
27	気質から見た双極性障害の病態進展と治療反応性の予測	寺尾 岳	精神神経医学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
28	医療画像-感覚情報変換によるマルチモーダル多感覚情報補助下画像診断法の研究開発	田上 秀一	放射線部	390,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
29	粘液産生性細気管支肺胞上皮癌に対する治療戦略	小副川 敦	呼吸器・乳腺外科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
30	神経活動依存的可塑性誘導・再教育を可能にする渦電流収束磁気刺激システムの開発研究	藤木 稔	脳神経外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
31	スピンメタボロミクスに関する基礎的検討および臨床応用	新宮 千尋	手術部	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
32	慢性炎症を基盤とする病態におけるヒト外尿道括約筋の脆弱化機序の解明と治療法の開発	三股 浩光	腎泌尿器外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

33	子宮内膜症において発現が増強しているmiR-210の意義に関する研究	檜原 久司	産科婦人科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
34	早産児の自発運動・姿勢評価:発達障害要因軽減を目指したケアへの応用	前田 知己	小児科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
35	角層pH調節機構の異常がアトピー性皮膚炎を誘発する	酒井 貴史	皮膚科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
36	脊髄二次性損傷の炎症・免疫制御機構の解明と運動機能再建	内田 晋	脳神経外科	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
37	慢性腎不全患者に肝代謝型薬物の用量調節は必要か? -CYP3A活性低下の要因探索	鈴木 陽介	薬剤部	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
38	糖尿病における血糖変動は、糖尿病性心筋症を促進するか	齋藤 聖多郎	高度救命救急センター	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
39	膠原病様モデルマウスを用いたT細胞活性化をもたらす新規脂質メディエータの同定	尾崎 貴士	膠原病内科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
40	角層pH上昇は、表皮内神経伸長反応を促進する	伊藤 亜希子	皮膚科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
41	うつ病における近赤外線光照射研究	兼久 雅之	精神科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
42	光療法は神経新生を促進するか?: FDG-PET研究	河野 健太郎	精神神経医学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
43	Driver遺伝子変異を有する肺癌における、空間・時間的な腫瘍内不均一性の解明	橋本 崇史	呼吸器外科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
44	全身性炎症反応における体内時計制御を目的とした新たな光療法の開発	小山 淑正	手術部	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
45	アンギオポエチン様因子2が前立腺癌細胞の悪性化に与える影響についての研究	佐藤 竜太	腎泌尿器外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
46	エストロゲン受容体βからみた非細菌性慢性前立腺炎の病態解明	溝口 晋輔	腎臓外科・泌尿器科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
47	新規シェーグレン症候群モデル「TRAF6欠損マウス」の病態基盤解析と治療開発	中野 聡子	眼科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
48	高血圧及び糖尿病合併心房細動における心脾連関	近藤 秀和	循環器内科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
49	透析患者の入院手術への透析専門医の介入が術後合併症、医療費に及ぼす影響の検討	中田 健	腎臓内科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

50	アルツハイマー病の発症機構における Neurovascular Unitの関与	木村 成志	神経内科学	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
51	抗イディオタイプ抗体を用いたアルツハイマー型認知症のワクチン療法の開発	藪内 健一	神経内科学	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
52	造影剤併用高分解MRIによる肝深在系リンパ管解析	松本 俊郎	放射線医学	2,080,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
53	Dual Energy CTによる抗癌剤体内分布の無侵襲定量法の開発V1	森 宣	放射線医学	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
54	抗炎症光線を用いた体腔内炎症治療法の検討-超低侵襲内視鏡治療デバイスの開発-	猪股 雅史	消化器・小児外科学	2,730,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
55	大腸がん標準治療開発のための国際多施設共同臨床試験	中嶋 健太郎	消化器外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
56	肥満外科バイパス手術モデルにおける消化管ホルモンと視床下部摂食中枢の変化について	太田 正之	消化器・小児外科学	2,730,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
57	制限増殖型レオウイルスに光線療法を併用した新しい集学的癌治療法の開発	衛藤 剛	消化器外科	2,600,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
58	レクチンマイクロアレイを用いた食道癌の再発予測マーカーの開発	圓福 真一朗	消化器・小児外科学	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
59	ラット脊椎固定モデルにおける抗RANKL抗体とBMPの相互効果の検討	宮崎 正志	整形外科	2,990,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
60	骨肉腫細胞の微小環境との相互作用における液性因子の意義についての研究	糸永 一朗	整形外科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
61	前立腺癌骨転移において骨髄由来間葉系幹細胞が癌細胞の悪性形質獲得に与える影響	野村 威雄	腎臓外科・泌尿器科	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
62	エストロゲン受容体βからみた慢性非細菌性前立腺炎の病態解明と新規治療法の開発	森 健一	腎臓外科・泌尿器科	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
63	着床不全症例における子宮内膜への低反応レベルレーザーの効果と機序に関する研究	河野 康志	産科婦人科学	3,120,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
64	オートファジーを介した妊娠高血圧症候群のメタボローム解析と予知因子の同定	西田 欣広	産科婦人科学	2,860,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
65	慢性中耳炎における制御性T細胞の免疫寛容化機序の解析	平野 隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
66	アルツハイマー型認知症における次世代遺伝子治療・細胞内抗体治療法の開発	松原 悦朗	神経内科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

67	電磁ホーン型ESRイメージング装置による高次脳機能障害の画像評価	杉田 憲司	脳神経外科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
68	小児難治性てんかん患者の心拍変動解析による突然死の危険因子の抽出	岡成 和夫	小児科	2,210,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
69	骨肉腫細胞に対するHSP90阻害剤とドキシソルビシン併用による抗腫瘍効果の増強	岩崎 達也	整形外科	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
70	miRNAが制御する子宮内膜症間質細胞の脱落膜化機構の解明と診断・治療への応用	甲斐 健太郎	産科婦人科学	2,210,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
71	上気道粘膜免疫における樹状細胞、NKT細胞、Th17細胞の機能関連の解析	梅本 真吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
72	鼻咽腔粘膜における好中球機能とTLR4およびTREM-1の協調的作用について	森山 宗仁	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
73	インフルエンザ菌によるphase variationと慢性中耳炎病態への関与	藤田 佳吾	耳鼻咽喉科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
74	ANCA関連血管炎の早期診断法の確立と中耳炎発症機構の解析	立山 香織	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
75	がん化学療法に伴う悪心・嘔吐治療の個別化を目指した新規バイオマーカーの開発	佐藤 雄己	薬剤部	2,340,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
76	Semaphorin- Neuropilin系の視点からの子宮内膜症の病態解明	西田 正和	産科婦人科	2,600,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
77	増殖硝子体網膜症の分子標的治療の開発	木許 賢一	眼科学	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
78	放射線による晩期炎症における遅発性活性酸素種の関与	小橋川 新子	放射線医学	2,080,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
79	標的医療用Aβオリゴマー抗体をPETプローブ化した新規画像バイオマーカーの創出	松原 悦朗	神経内科学	6,760,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
80	光造形と生体内組織形成術による生体適合性に優れる弁再建用バイオリーフレットの開発	官本 伸二	心臓血管外科学	6,500,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
81	アプレピタントの抗癌剤による食欲不振と血中食欲関連ペプチド濃度に与える効果の検討	龍田 涼佑	薬剤部	510,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
82	CHDF施行患者におけるドリペネムの母集団薬物動態解析	野々下 航	薬剤部	570,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
83	認知症発症予測・予防介入・徘徊検知支援技術の開発と実用化を目指す研究	松原 悦朗	神経内科学	67,300,000	補 委	国立研究開発機構 日本医療研究開発機構

84	喫煙妊婦の胎盤及びニコチン存在下の臍帯静脈血管内皮細胞のメタボローム解析	西田 欣広	産科婦人科学	2,000,000	補委	公益財団法人喫煙科学財団
85	肥満および認知症の発症における喫煙の影響	柴田 洋孝	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	2,000,000	補委	公益財団法人喫煙科学財団
86	肥満に伴うグルカゴン分泌異常に対するTrkBアゴニストの有用性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	300,000	補委	一般社団法人日本内分泌学会
87	肥満に伴う認知症の発症予防に対する豚肉接種による腸内環境改善効果の有用性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	800,000	補委	公益財団法人伊藤記念財団
88	非小細胞肺癌におけるDNA損傷修復と免疫チェックポイント分子との関連	小副川 敦	呼吸器・乳腺外科学	2,000,000	補委	公益財団法人武田科学振興財団
89	肥満を伴ったアルツハイマー型認知症発症予防に対するガラクトオリゴ糖の有用性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	1,000,000	補委	公益財団法人三井生命厚生財団
90	大豆イソフラボン摂取によるインクレチン分泌改善作用を用いた肥満を伴うアルツハイマー型認知症進展予防の検討	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	1,000,000	補委	公益財団法人すかいらくフードサイエンス研究所
91	生活習慣病に伴う認知機能悪化に対する大豆食品の予防効果	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	1,000,000	補委	公益財団法人小柳財団
92	難治性脳腫瘍;びまん性橋膠腫(DIPG)に対する新しいエピジェネティクス治療	宮原 弘明	小児科	150,000	補委	公益財団法人がんの子どもを守る会
93	骨盤脆弱性骨折は早期手術により予後が改善するか	金崎 彰三	整形外科	831,200	補委	AO財団
94	BKウイルス感染症に特化した抗体製剤による新規治療法の確立	三股 浩光	腎泌尿器外科学	500,000	補委	一般社団法人日本血液製剤機構
95	胸腺上皮性腫瘍(胸腺腫)におけるPD-L1発現の解析	内匠 陽平	呼吸器外科	100,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
96	造血幹細胞移植におけるフェンタニルの適正使用についての検討	池邊 太一	腫瘍・血液内科学	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
97	標準治療不応進行大腸癌症例に対するオキサリプラチン再投与の効果と安全性の検討	大津 智	腫瘍・血液内科学	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
98	組織所見、音叉検査、遺伝子多型からみた抗がん剤による末梢神経障害の発現予測の検討	白尾 國昭	腫瘍・血液内科学講座	300,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
99	腫瘍内不均一性がT790M変異陽性肺癌に対する第3世代TKI初期耐性に及ぼす影響の研究	橋本 崇史	呼吸器・乳腺外科学講座	100,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団
100	大腸癌肝転移に対する肝切除後化学療法に至適投与量に関する検討(臨床第I相試験)	内田 博貴	消化器小児外科	200,000	補委	公益財団法人大分がん研究振興財団

101	成人T細胞白血病に対する同種造血細胞移植学会における至適ドナーソースの検討	緒方 正男	腫瘍・血液内科学	200,000	補 委	公益財団法人大分がん研究振興財団
102	分泌因子Tsukushiの新規肺腺癌マーカーとしての可能性の探求	河野 利恵	血液内科	200,000	補 委	公益財団法人大分がん研究振興財団
103	特発性心室細動(ブルガダ症候群、早期再分極症候群、原因不明の特発性心室細動)の機序及び診断・予後指標に関する多角的理研究	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学	400,000	補 委	公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
104	肥満に伴う認知症予防に対する大豆イソフラボンの有用性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	500,000	補 委	公益財団法人健康科学財団

計 104

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nakano S Nakamuro T Yokoyama K 他	眼科	Prognostic Factor Analysis of Intraocular Pressure with Neovascular Glaucoma.	Journal of Ophthalmology DOI:10.1155/2016/1205895,2016	Original Article
2	Oki R Yamada K Nakano S 他	眼科	A Japanese family with autosomal dominant oculocutaneous albinism type 4.	Investigative Ophthalmology & Visual Science 58(2),1008-1016,2017	Original Article
3	Nakano S Sugita S Tomaru Y 他	眼科	Establishment of multiplex solid-phase strip PCR test for detection of 24 ocular infectious disease pathogens.	Investigative Ophthalmology & Visual Science 58(3),1553-1559,2017	Original Article
4	Kusunose M Sakino Y Noda Y 他	眼科	A case of iris melanocytoma demonstrating diffuse melanocytic proliferation with uncontrolled intraocular pressure.	Case Reports in Ophthalmology, 8(1),190-194,2017	Case report
5	Tanabe S Terao T Shiotsuki I 他	高度救命救急センター	Anxious temperament as a risk factor of suicide attempt.	Compr Psychiatry 68,72-77,2016	Original Article
6	Hirakawa T Kawano Y Tsunno A 他	産科婦人科	Sclerosing stromal tumor of the ovaries overexpressing vascular endothelial growth factor:two cases.	Taiwan J Obstet Gynecol 2016. 55(2),296-298,2016	Case report
7	Aoyagi Y Nasu K Kai K 他	産科婦人科	Decidualization Differentially Regulates microRNA Expression in Eutopic and Ectopic Endometrial Stromal Cells.	Reprod Sci. 24(3),445-455,2017	Original Article
8	Mizoguchi C Matsumoto H Nasu K 他	産科婦人科	Intravenous leiomyomatosis treated with radical hysterectomy and adjuvant aromatase inhibitor therapy.	J Obstet Gynaecol Res 2016. 42(10),1405-1408,2016	Case report
9	Kono T Takahashi Y Kawamura K 他	歯科口腔外科	Relationship between proliferative activity of tumor cells and the enlargement pattern of metastatic lymph nodes in oral squamous cell carcinomas.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine and Pathology 29(2),116-121,2017	Original Article
10	Noda K Hirano T Okamoto T 他	耳鼻咽喉科	Primary salivary duct carcinoma arising from the Stensen duct	Ear Nose Throat J 95(9),E15-17,2016	Original Article
11	Watanabe K Otsu S Hirashima Y 他	腫瘍・血液内科	phase I study of binimetinib (MEK162) in Japanese patients with advanced solid tumors.	Cancer Chemother Pharmacol. 77(6),1157-64,2016	Original Article

小計 11

12	Saburi M Ogata M Satou T 他	腫瘍・血液内 科	Successful cord blood stem cell transplantation for an adult case of chronic active Epstein-Barr virus infection	Intern Med. 55(23),3499-3504,2016	Case report
13	Takahashi N	循環器内科	Aging - The Great Impact on Coagulation State.	Circ J 80(10),2092-2093,2016	Original Article
14	Yufu K Kondo H Shinohara T 他	循環器内科	Outcome of Patients With Cardiac Sarcoidosis Who Received Cardiac Resynchronization Therapy: Comparison With Dilated Cardiomyopathy Patients.	J Cardiovasc Electrophysiol 28(2),177-181,2017	Original Article
15	Shinohara T Kondo H Otsubo T 他	循環器内科	Exaggerated Reactivity of Parasympathetic Nerves Is Involved in Ventricular Fibrillation in J-Wave Syndrome.	J Cardiovasc Electrophysiol 28(3),321-326,2017	Original Article
16	Watanabe K Ohta M Yada K 他	消化器・小児 外科	Fucosylation is associated with the malignant transformation of intraductal papillary mucinous neoplasms: a lectin microarray-based study.	Surg Today 46(10),1217-1223,2016	Original Article
17	Inomata M Akagi T Nakajima K 他	消化器・小児 外科	A prospective feasibility study to evaluate neoadjuvant-synchronous S-I with radiotherapy for locally advanced rectal cancer: A multicentre phase II trial(UMIN ID: 03396).	Molecular and Clinical Oncology 4(4),510-514,2016	Original Article
18	Empuku S Nakajima K Akagi T 他	消化器・小児 外科	An 80-gene set to predict response to pre-operative chemoradiotherapy for rectal cancer by principle component analysis .	Molecular and Clinical Oncology 4(5),733-739,2016	Original Article
19	Iwashita Y Uchida H Endo Y 他	消化器・小児 外科	Laparoscopic caudal approach for a small hepatocellular carcinoma located in the paracaval portion of a cirrhotic liver.	Asian J Endosc Surg 9(3),204-207,2016	Original Article
20	Uchida H Iwashita Y Saga K 他	消化器・小児 外科	Clinical Utility of the Difficulty Scoring System for Predicting Surgical Time of Laparoscopic Liver Resection.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A 26(9),702-706,2016	Original Article
21	Iwashita Y Ohyama T Honda G 他	消化器・小児 外科	What are the appropriate indicators of surgical difficulty during laparoscopic cholecystectomy? Results from a Japan-Korea-Taiwan multinational survey.	J Hepatobiliary Pancreat Sci 23(9),533-547,2016	Original Article
22	Ueda Y Shiraishi N Toujigamori M 他	消化器・小児 外科	Laparoscopic proximal gastrectomy with gastric tube reconstruction.	JLS 20(3),online,2016	Original Article
23	Hara T Etoh T Ueda Y 他	消化器・小児 外科	A case of undifferentiated-type mucosal gastric cancer with multiple lymph node metastases fulfilling the curative criteria for endoscopic resection according to routine pathological analysis.	Surgical Case Reports 2(1),96,2016	Case report
24	Fujishima H Etoh T Hiratsuka T 他	消化器・小児 外科	Serosal and muscular layers incision technique in laparoscopic surgery for gastric gastrointestinal stromal tumors.	Asian J Endosc Surg 10(1),92-95,2017	Original Article

25	Etoh T Shiroshita H Shiraishi N 他	消化器・小児 外科	Ongoing clinical studies of minimally invasive surgery for gastric cancer in Japan.	Transl Gastroenterol Hepatol 1(31),online,2016	Original Article
26	Akagi T Inomata M	消化器・小児 外科	New findings based on national clinical databases analysis.	Ann Laparosc Endosc Surg 1(22),online,2016	Original Article
27	Honda K Seike M Oribe J 他	消化器内科	Risk factors for deterioration of long-term liver function after radiofrequency ablation therapy.	World J Hepatol 8(13),597-604,2016	Original Article
28	Okimoto T Mizukami K Ogawa R 他	消化器内科	Esomeprazole- or rabeprazole-based triple therapy eradicated Helicobacter pylori comparably regardless of clarithromycin susceptibility and CYP2C19 genotypes.	J Clin Biochem Nutr 59(2),149-153,2016	Original Article
29	Hirashita Y Yanagihara K Tsukamoto Y 他	消化器内科	Reduced phosphorylation of ribosomal protein S6 is associated with sensitivity to MEK inhibition in gastric cancer cells.	Cancer Science 107(12),1919- 1928,2016	Original Article
30	Hashinaga M Suzuki R Akada J 他	消化器内科	Differences in amino acid frequency in CagA and VacA sequences of Helicobacter pylori distinguish gastric cancer from gastric MALT lymphoma.	Gut Pathog. 8(54),online,2016	Original Article
31	Mizukami K Murakami K	消化器内科	Effects of vonoprazan on intractable non- steroidal anti-inflammatory drug-induced ulcers that cannot be controlled with conventional proton pump inhibitors.	Dig Endosc 29(2),233-234,2017	Case report
32	Korematsu S Takano T Izumi T	小児科	Pre-school development and behavior screening with a consecutive support programs for 5-year-olds reduces the rate of school refusal.	Brain Dev 38(4),373-376,2016	Original Article
33	Kuga S Goto H Okanari K 他	小児科	Reversible cerebral vasoconstriction syndrome manifesting as focal seizures without a thunderclap headache: A pediatric case report.	Brain Dev 38(9),880-883,2016	Case report
34	Maeda T Inoue M Sekiguchi K 他	小児科	Aminophylline-associated irritable behaviour in preterm neonates	Ear Hum Dev. 99,37-41,2016	Original Article
35	Ono M Maeda T Ihara K	小児科	The first mixoploidy infant with full triploidy in blood cells.	Pediatr Int 58(12),1354-5,2016	Case report
36	Hanaoka T Kimura N Aso Y 他	神経内科	Relationship between white matter lesions and regional cerebral blood flow changes during longitudinal follow up in Alzheimer's disease	Geriatr Gerontol Int 16(7),836-842,2016	Original Article
37	Abe Y Kimura N Goto M 他	神経内科	Brain perfusion in corticobasal syndrome with progressive aphagia	Dement Geriatr Cogn Dis Extra 6(1),133-141,2016	Original Article

38	Aso Y Nakamura K Kimura N 他	神経内科	Induction of genes expressed in endothelial cells of the corpus callosum in the chronic cerebral hypoperfusion rat model	Pathobiology 84(1),25-37,2016	Original Article
39	Abe Y Kimura N Aso Y 他	神経内科	Brain SPECT findings at the acute stage of disease in patients with Wernicke encephalopathy	J Gerontol Geriatr Res 5(6),online,2016	Original Article
40	Sumino Y Yoshikawa S Mori K 他	腎臓外科・泌尿器科	IGF-1 as an Important Endogenous Growth Factor for Recovery from Impaired Urethral Continence Function in Rats with Simulated Childbirth Injury.	The Journal of Urology 195(6),1927-1935,2016	Original Article
41	Takahashi M Tsukamoto Y Kai T 他	腎臓外科・泌尿器科	Downregulation of WDR20 due to loss of 14q is involved in the malignant transformation of clear cell renal cell carcinoma.	Cancer Science 107(4),417-423,2016	Original Article
42	Yamasaki M Shin T Sato R 他	腎臓外科・泌尿器科	Pfannenstiel laparoendoscopic reduced-port radical nephrectomy.	Asian Journal of Endoscopic Surgery 9(3),222-225,2016	Original Article
43	Sato F Nakagawa K Kawauchi A 他	腎臓外科・泌尿器科	Laparoendoscopic single-site surgeries: A multicenter experience of 469 cases in Japan.	International Journal of Urology 24(1),69-74,2017	Original Article
44	Yamasaki M Sato Y Nomura T 他	腎臓外科・泌尿器科	Composite paraganglioma-ganglioneuroma concomitant with adrenal metastasis of medullary thyroid carcinoma in a patient with multiple endocrine neoplasia type 2B: A case report.	Asian Journal of Endoscopic Surgery 10(1),66-69,2017	Case report
45	Nomura T Fukuda Y Sakamoto S 他	腎臓外科・泌尿器科	Comprehensive Evaluation of the Health-Related Quality of Life after Ultrasound-Guided Prostate Needle Biopsy:A Prospective Study.	Andrology (Los Angel) 5(1),3-8,2016	Original Article
46	Wada T Anai H Shuto T 他	心臓血管外科	Difficult preoperative diagnosis in a case of rapidly progressive carcinomatous pericarditis.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery 64(4),227-230,2016	Case report
47	Takebayashi S Hirota J Mori K 他	心臓血管外科	Unique Technique for Open Surgical Repair after Failed Endovascular Aneurysm Repair with Proximal Anastomoses	Annals of Vascular Diseases 9(2),120-124,2016	Case report
48	Kawano M Tanaka K Itonaga I 他	整形外科	MicroRNA-301a promotes cell proliferation via PTEN targeting in Ewing's sarcoma cells.	Int J Oncol 48(4),1531-1540,2016	Original Article
49	Ishihara T Miyazaki M Yoshiiwa T 他	整形外科	Pyogenic vertebral osteomyelitis caused by Yersinia pseudotuberculosis.	Joint Bone Spine. 83(6),727-729,2016	Case report
50	Miyazaki M Yoshiiwa T Ishihara T 他	整形外科	Tuberculous Spondylitis following Intravesical Bacillus Calmette-Guerin for Bladder Cancer.	Case Rep Orthop. DOI:10.1155/2016/6741284,2016	Case report

51	Yoshiiwa T Miyazaki M Kawano M 他	整形外科	Analysis of the Relationship between Hypertrophy of the Ligamentum Flavum and Lumbar Segmental Motion with Aging Process.	Asian Spine J. 10(3),528-535,2016	Original Article
52	Kanezaki S Miyazaki M Notani N 他	整形外科	Clinical presentation of geriatric polytrauma patients with severe pelvic fractures: comparison with younger adult patients.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 26(8),885-890,2016	Original Article
53	Kaku N Tabata T Tsumura H	整形外科	Relationship between pull-out strength and oscillation angle in bipolar cups: an in vitro study.	J Orthop Surg 24(2),209-215,2016	Original Article
54	Hirakawa M Miyazaki M Ikeda S 他	整形外科	Evaluation of the rotational alignment of the tibial component in total knee arthroplasty: position prioritizing maximum coverage.	Eur J Orthop Surg Traumatol 27(1),119-124,2017	Original Article
55	Notani N Miyazaki M Kanezaki S 他	整形外科	Surgical management of ventrally located spinal meningiomas via posterior approach.	Eur J Orthop Surg Traumatol 27(2),181-186,2017	Original Article
56	Ishihara T Miyazaki M Notani N 他	整形外科	Locally applied simvastatin promotes bone formation in a rat model of spinal fusion.	J Orthop Res. DOI:101002/jor23479, 2016	Original Article
57	Tanaka K Joyama S Chuman H 他	整形外科	Feasibility and efficacy of gemcitabine and docetaxel combination chemotherapy for bone and soft tissue sarcomas: multi-institutional retrospective analysis of 134 patients.	World J Surg Oncol. 14(1),306,2016	Original Article
58	Yoshiiwa T Miyazaki M Notani N 他	整形外科	Analysis of the Relationship between Ligamentum Flavum Thickening and Lumbar Segmental Instability, Disc Degeneration, and Facet Joint Osteoarthritis in Lumbar Spinal Stenosis.	Asian Spine J. 10(6),1132-1140,2016	Original Article
59	Notani N Miyazaki M Kanezaki S 他	整形外科	Comparison of morphology between patients with and without developmental spinal canal stenosis to inform the feasibility of C1 lateral mass screw insertion in the atlas.	J Orthop Sci 22(2),207-212,2017	Original Article
60	Kaku N Tabata T Tagomori H 他	整形外科	Isolated acetabular revision with femoral stem retention after bipolar hip arthroplasty.	Arch Orthop Trauma Surg. 137(3),425-430,2017	Original Article
61	Kohno K Terao T Hatano K 他	精神科	Postcomparison of [¹⁸ F]-fluorodeoxyglucose uptake in the brain after short-term bright light exposure and no intervention.	Acta Psychiatr Scand 134(1),65-72,2016	Original Article
62	Hirakawa H Terao T Tanaka T 他	精神科	A Case of Mutism in Noncatatonic Schizophrenia Responding to Small Dose of Fluvoxamine Addition to Clozapine.	J Clin Psychopharmacol 36(5),531-532,2016	Case report
63	Kamei K Terao T Katayama Y 他	精神科	A Predictive Model of Plasma Lamotrigine Levels.	Pharmacopsychiatry 49 (5),182-185,2016	Original Article

64	Kawashima C Tanaka Y Inoue A 他	精神科	Hyperfunction of left lateral prefrontal cortex and automatic thoughts in social anxiety disorder: A near-infrared spectroscopy study.	J Affect Disord 206,256-260,2016	Original Article
65	Tanaka Y Ishitobi Y Inoue A 他	精神科	Sex determines cortisol and alpha-amylase responses to acute physical and psychosocial stress in patients with avoidant personality disorder.	Brain Behav 6(8),e00506,2016	Original Article
66	Fudaba H Abe T Morishige M 他	脳神経外科	Dedifferentiated chordoid meningioma with rhabdomyosarcomatous differentiation on the middle cranial fossa.	Neuropathology. 2016 Dec;36(6):579-583. doi: 10.1111/neup.12310. Epub 2016 May 16. 36(6) 579-583 2016	Original Article
67	Kawasaki Y Fujiki M Uchida S 他	脳神経外科	A Single Oral Dose of Geranylgeranylacetone Upregulates Vascular Endothelial Growth Factor and Protects against Kainic Acid-Induced Neuronal Cell Death: Involvement of the Phosphatidylinositol-3 Kinase/Akt Pathway	Pathobiology. 84(4),184-191,2017	Original Article
68	Nakamura Y Ishikawa K Kai Y 他	皮膚科	Case of malignant melanoma that developed the ability to secrete granulocyte colony-stimulating factor.	J Dermatol. 43(5),580-582,2016	Case report
69	Takeo N Sakai T Saito-Shono 他	皮膚科	Three cases of pigmented cosmetic dermatitis-like eruptions associated with primary Sjogren's syndrome or anti-SSA antibody.	J Dermatol. 43(8),947-950,2016	Original Article
70	Ishikawa K Sakai T Saito-Shono 他	皮膚科	Pemetrexed-induced scleroderma-like conditions in the lower legs of a patient with non-small cell lung carcinoma.	J Dermatol. 43(9),1071-1074,2016	Original Article
71	Fujinaga M Hirose H Saito-Shono 他	皮膚科	CRTC1-MAML2 gene fusion in G-CSF-secreting mucoepidermoid carcinoma: an indicator of favourable prognosis?	Eur J Dermatol. 26(4),402-403,2016	Original Article
72	Shimada H Nakamura Y Saito-Shono 他	皮膚科	A case of cutaneous tuberculosis: a clue to diagnosing miliary tuberculosis.	Eur J Dermatol. 26(5),510-511,2016	Case report
73	Takeo N Fujiwara S Sakai T 他	皮膚科	Hereditary lactate dehydrogenase M-subunit deficiency with late-developing pustular psoriasis-like lesions.	J Dermatol. 43(12),1429-1432,2016	Original Article
74	Saito K Ando H Goto K 他	皮膚科	A Case of Hyperandrogenism, Insulin Resistance, and Acanthosis Nigrans Syndrome; Increase in Proliferation Cell Nuclear Antigen and Decrease in Loricrin in Acanthosis Nigrans.	Ann Dermatol. 28(5),637-639,2016	Case report
75	Zhang W Sakai T Hatano Y 他	皮膚科	Betamethasone Butyrate Propionate Inhibits the Induction of Thymic Stromal Lymphopoietin in Cultured Normal Human Keratinocyte.	Ann Dermatol. 28(6),772-775,2016	Original Article
76	Matsumoto S Mori H Kiyonaga M 他	放射線科	Perirenal lymphatic systems: Evaluation using spectral presaturation with inversion recovery T2-weighted MR images with 3D volume isotropic turbo spin-echo acquisition at 3.0T.	J Magn Reson Imaging 44(4),897-905,2016	Original Article

77	Omeri AK Matsumoto S Kiyonaga M 他	放射線科	Beak-Like Extension of the Pancreatic Uncinate Process on MDCT: Is It Hyperplasia or Movement?	J Comput Assist Tomogr 40(5),683-691,2016	Original Article
78	Sagara Y Matsumoto S Oga M 他	放射線科	MDCT features of strangulated ileus due to an appendix epiploica of the sigmoid colon: four cases and a review of the literature.	Abdominal Radiology 41(9),1722-1727,2016	Case report
79	Takaji R Matsumoto S Kiyonaga M 他	放射線科	Periportal low attenuation associated with liver metastasis from colorectal cancer: evaluation using multi-detector-row CT with pathological correlation.	Japanese Journal of Radiology 35(1),10-15,2017	Original Article
80	Sagara Y Kiyosue H Tanoue S 他	放射線科	Selective Transvenous Embolization Combined with Balloon Sinoplasty for the Treatment of Intracranial Dural Arteriovenous Fistulas with Sinus Occlusion.	Journal of Neuroendovascular Therapy 10(5),264-271,2016	Original Article
81	Uchino T Miura M Oyama Y 他	麻酔科	Lateral deviation of four types of epidural catheters from the lumbar epidural space into the intervertebral foramen.	Journal of Anesthesia 30(4),589-590,2016	Original Article
82	Goto K Sato Y Yasuda N 他	麻酔科	Pharmacokinetics of ceftriaxone in patients undergoing continuous renal replacement therapy.	Journal of Basic and Clinical Physiology and Pharmacology 27(6),625-631,2016	Original Article
83	Yasuda N Goto K Ohchi Y 他	麻酔科	The efficacy and safety of antithrombin and recombinant human thrombomodulin therapy in patients with severe sepsis and disseminated intravascular coagulation.	Journal of Critical Care 36,29-34,2016	Original Article
84	Nakahara R Satho Y Itoh H	薬剤部	High-performance liquid chromatographic ultraviolet detection of nilotinib in human plasma from patients with chronic myelogenous leukemia, and comparison with liquid chromatography-tandem mass spectrometry.	J Clin Lab Anal 30(6),1028-1030,2016	Original Article
85	Tanaka R Suzuki Y Takumi Y 他	薬剤部	A retrospective analysis of risk factors for linezolid-associated hyponatremia in Japanese patients.	Biol Pharm Bull 39(12),1968-1973,2016	Original Article
86	Suzuki Y Katagiri F Sato F 他	薬剤部	Clinical implications of plasma N-acetyl-seryl-aspartyl-lysyl-proline level in stable kidney transplant recipients.	Clin Lab 62(7),1323-1328,2016	Original Article
87	Luo J Imai H Ohyama T 他	臨床薬理	The pharmacokinetic exposure to fexofenadine is volume-dependently reduced in healthy subjects following oral administration with apple juice.	Clin Transl Sci 9(4),201-206,2016	Original Article
88	Komiya K Oka H Ohama M 他	呼吸器・感染症内科	Evaluation of prognostic differences in elderly patients with pneumonia treated by between pulmonologists and non-pulmonologists: a propensity score analysis.	Clin Respir J. 10(4),462-468,2016	Original Article
89	Yamasue M Nureki S Matsumoto H 他	呼吸器・感染症内科	Corticosteroid Therapy for a Patient with Relapsing Polychondritis Complicated by IgG4-Related Disease.	Tohoku J Exp Med. 239(3),223-30,2016	Case report

90	Ando M Miyazaki E Hatano Y 他	呼吸器・感染症内科	Subcutaneous sarcoidosis: a clinical analysis of nine patients.	Clin Rheumatol 35(9),2277-2281,2016	Original Article
91	Yoshioka D Kajiwara C Ishii Y 他	呼吸器・感染症内科	Efficacy of beta-Lactam-plus-Macrolide Combination Therapy in a Mouse Model of Lethal Pneumococcal Pneumonia.	Antimicrob Agents Chemother 60(10),6146-6154,2016	Original Article
92	Ando M Miyazaki E Abe T 他	呼吸器・感染症内科	Angiopoietin-2 expression in patients with an acute exacerbation of idiopathic interstitial pneumonias.	Respir Med 117,27-32,2016	Original Article
93	Nureki SI Ishii K Fujisaki H 他	呼吸器・感染症内科	Familial Mediterranean Fever with Rheumatoid Arthritis Complicated by Pulmonary Paragonimiasis.	Intern Med. 55(19),2889-2892,2016	Case report
94	Ando M Mukai Y Ushijima RI 他	呼吸器・感染症内科	Disseminated Mycobacterium tuberculosis Infection Masquerading as Metastasis after Heavy Ion Radiotherapy for Prostate Cancer.	Intern Med 55(22),3387-3392,2016	Case report
95	Komiya K Ohta S Arima K 他	呼吸器・感染症内科	Clarithromycin attenuates IL-13-induced periostin production in human lung fibroblasts.	Respir Res. 18(1),37,2017	Original Article
96	Kushima H Ishii H Tokimatsu I 他	呼吸器・感染症内科	Effects of Sulfamethoxazole-Trimethoprim on Airway Colonization with Pneumocystis jirovecii.	Jpn J Infect Dis 69(3),252-255,2016	Original Article
97	Kushima H Tokimatsu I Ishii H 他	呼吸器・感染症内科	Invasive Pulmonary Aspergillosis Presenting with Tracheobronchial Involvement.	Intern Med 55(12),1679,2016	Case report
98	Okamoto M Okamoto M Gotoh K ほか	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科	Fulminant Type 1 Diabetes Mellitus with Anti-programmed Cell Death-1 Therapy.	J Diabetes Investig 7(6),915-918,2016	Original Article

小計 9
計 98

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病 院における	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、組織・構成、設置者の責務、委員会の責務、委員会の運営、委員会事務局の業務、及び記録の保管について規定している。内容は、ヘルシンキ宣言及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針にすべて対応するものとして整備している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 対象事象、審査する委員会に関する事項（審議事項、審査手続き、審査内容等）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 0 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の責任者・分担者を必須受講者として、講演による講習を行っている。その他研究支援業務や倫理審査委員会委員、また間接的に研究に関わる者についても基本的には必須としている。内容は、研究倫理の歴史、倫理的な問題のある具体例の解説、指針が改訂された場合にはその主なポイントの解説を行っている。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

呼吸器内科臨床研修プログラム
内分泌・糖尿病内科専門医育成プログラム
リウマチ・膠原病内科専門医育成プログラム 他

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	83.0 人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
安東 優	呼吸器内科	診療教授	25年	
柴田 洋孝	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	教授	29年	
藪内 健一	神経内科	助教	11年	プログラム別
木村 成志	神経内科	准教授	21年	プログラム別
村上 和成	消化器内科	教授	35年	
高橋 尚彦	循環器内科	教授	30年	
白尾 國昭	血液内科	教授	31年	
白尾 國昭	腫瘍内科	教授	31年	
宮崎 英士	総合内科・総合診療科	教授	34年	
寺尾 岳	精神科	教授	32年	
井原 健二	小児科	教授	29年	
猪股 雅史	消化器外科, 小児外科	教授	29年	
杉尾 賢二	呼吸器外科, 乳腺外科	教授	35年	
和田 朋之	心臓血管外科	准教授	26年	
藤木 稔	脳神経外科	教授	30年	
糸永 一朗	整形外科	講師	26年	
清水 史明	形成外科	講師	18年	
波多野 豊	皮膚科	教授	25年	
三股 浩光	腎臓外科・泌尿器科	教授	33年	
久保田 敏昭	眼科	教授	35年	
鈴木 正志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	32年	
橋原 久司	産科婦人科	教授	34年	
森 宣	放射線科	教授	39年	
北野 敬明	麻酔科	教授	33年	
河野 憲司	歯科口腔外科	教授	30年	
坂本 照夫	高度救命救急センター	教授	40年	
上村 尚人	臨床薬理センター	教授	26年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
【検査部】 ・研修の主な内容 医療技術部研修会 ・研修の期間・実施回数 平成28年7月27日 ・研修の参加人数 85名 【看護部】 別紙1のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 新採用者オリエンテーションにより、本院において医療業務に携わる上で、各職員が必ず修得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知・徹底している。 ・研修の期間・実施回数 平成28年4月1日（金）、4月4日（月） ※採用者があり次第、各部門にて随時実施 ・研修の参加人数 63名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

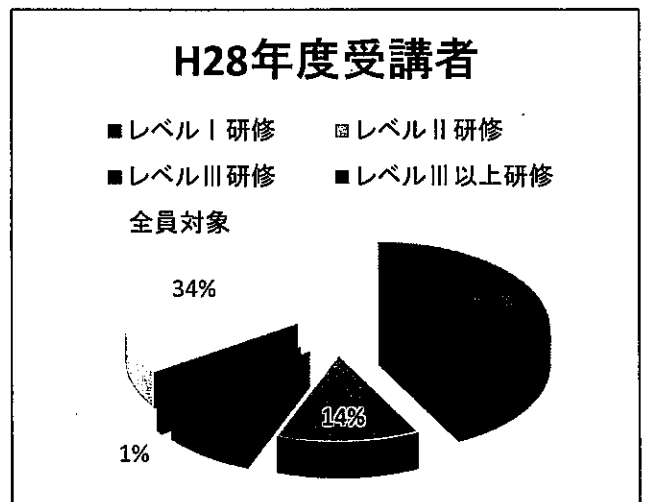
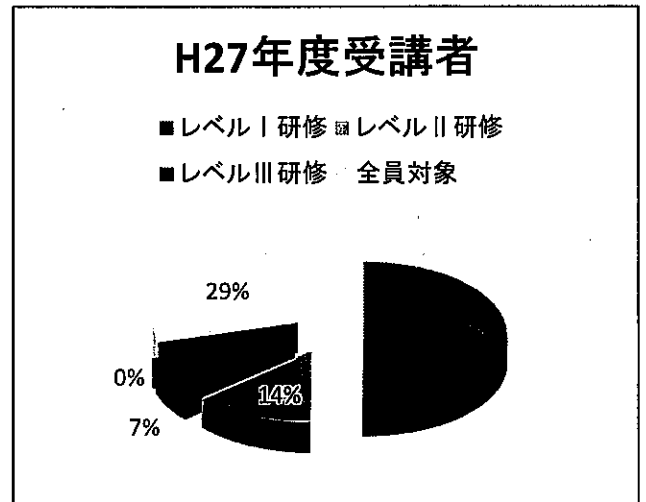
年度別研修実績

対象年度: H28年度

研修名	人数	時間
新人看護職員研修		
新採用・サービスマナー・倫理	51	16
新人・フレッシュ研修(中止)	0	0
新人・フレッシュ・リフレッシュ研修	46	8
新人・1ラウンドフォローアップ	47	8
新人・2ラウンドフォローアップ	48	16
新人・1年目フォローアップ	48	16
技術演習	48	48
ME研修	51	16
薬の知識	48	2
褥瘡予防	47	1.25
新採用・医療安全管理	51	4
新採用・感染管理	51	4
BLS研修	47	8
看護過程I	48	32
コミュニケーション基礎編	58	16
レベルI研修	689	195.25
研修名	人数	
看護過程II(LII)	41	16
リーダーI(LII)	65	16
実地指導者研修	15	24
医療安全管理 レベルII	49	4
感染管理 レベルII	48	4
レベルII研修	218	64
研修名	人数	
看護過程III(LIII)	17	8
リーダーII(LIII)	30	9.5
事例検討・ペナール(LIII)	29	8
教育担当者研修	13	24
医療安全管理 レベルIII	17	16
感染管理 レベルIII	25	4
リフレクティブ研修	7	88
リフレクティブ研修フォローアップ	8	8
レベルIII研修	146	165.5
地域包括ケア(公開講座)研修生のみ	13	1.5
地域包括ケア(施設見学・発表・GW)		12
研修名	人数	
コミュニケーションスキル	8	7
看護と倫理	9	8
フィジカルアセスメントII	7	7.5
論理的思考	11	8
シリーズで学ぶがん看護①	11	2
シリーズで学ぶがん看護②~④		2
急性重症看護	28	2
心電図の基礎知識(日本光電)	60	7.25
心電図の基礎知識(不整脈)	40	7.7
心電図の知識(虚血)	27	7.7
皮膚排泄ケア	23	4
フィジカルアセスメントI	66	2
摂食嚥下障害看護I	11	4
災害看護(救急看護)	28	2
周術期看護	43	1.5
糖尿病看護I	47	4
集中ケアII(人工呼吸器装着中の看護)	44	4
老年看護(1日)	19	6
老年看護(半日)	0	0
地域包括ケア(公開講座)研修生以外	62	1.5
脳卒中リハビリテーション看護	15	2
自主研修	559	90.15

H27年度レベル別			H28年度レベル別		
	受講者数	時間		受講者数	時間
レベルI研修	906	212	レベルI研修	689	195.3
レベルII研修	245	64	レベルII研修	218	64
レベルIII研修	125	164	レベルIII研修	146	165.5
	0	0			13.5
全員対象	530	87	全員対象	559	90.15
受講者総数	1806	527	受講者総数	1625	528.4

注)全員対象:自主研修



(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長事務代理 副病院長 門田 淳一	
管理担当者氏名	診療記録管理責任者, 医薬品安全管理責任者, 医療機器安全管理責任者, 医療情報部長, 放射線部長, 看護部長, 各診療科長, 各診療施設長, 各課長	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	医療情報部	
		手術記録	医療情報部	
		看護記録	医療情報部	
		検査所見記録	医療情報部	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医療情報部	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究・社会連携課 経営管理課 総務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課 (医療安全管理部)	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課 (医療安全管理部)	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課 (医療安全管理部)	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課 (医療安全管理部)	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課 (感染制御部)
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課 (感染制御部)
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課 (感染制御部)
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 (感染制御部)
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課 (感染制御部)
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課 (医療安全管理部)
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	総務課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課 (医療安全管理部)
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課 (医療安全管理部)
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医事課 (医療安全管理部)
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課 (医療安全管理部)		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	医学・病院事務部長 大西 文昭		
閲覧担当者氏名	総務課長 安東 ゆか		
閲覧の求めに応じる場所	第2会議室		
閲覧の手続の概要			
・ 閲覧を希望する者は、総務課に申し込みを行う。			
・ 閲覧担当者は、閲覧を希望する者を閲覧場所の第2会議室に案内し、閲覧いただく。			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全に関する基本的考え方2. 医療安全管理に係る体制確保のための組織等3. 医療安全管理に係る職員の教育・研修4. 医療事故発生時の対応5. 医療事故等の報告及び改善策の立案6. 院内死亡全例の報告及び検証7. 当該指針の閲覧8. 患者相談に関する基本方針9. その他（医療安全管理マニュアル及び改善策の見直し、医療安全対策の推進を図る機関への報告等）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）・ 開催状況：年12回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関する事。2. 医療事故の判定に関する事。3. 医療安全管理に関する改善策に関する事。4. 医療安全管理のための職員研修に関する事。5. 医事紛争に関する事。6. その他医療安全管理上の重要事項に関する事。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年6回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 平成27年度インシデント総括とマニュアル改訂 知らなかったでは済まされない麻薬の管理方法2. 第1回ME機器講習会3. 医療安全の視点からの褥瘡管理 医薬品のリスクマネジメントと適正使用 ～もうしらないじゃ、すまされない～4. 特定機能病院の承認要件見直し －今しなければならぬこと、今後しなければならぬこと－5. 実験を交えた実践講座「改めて電気メスを知る」6. 第2回ME機器講習会	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 事故（インシデント）報告については、調査・分析を行い、改善策の立案を行っている。 全体で共有すべき事例や新たに策定した安全対策については、毎月開催される病院運営委員会及びリスクマネージャー連絡会で周知し、全体に対しては、リスクマネージャーを通して周知を図っている。2. 定期的に院内ラウンドを実施し、安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証及び指導・助言を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 院内感染に対する基本的考え方2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本的方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 感染予防対策の確立2. 感染予防の実施, 監視及び指導3. 感染源の調査4. 感染予防対策に関する情報の収集5. その他感染予防に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 血流感染を防ぐ！血管内カテーテル感染対策2. 微生物検査をさらに利用していただくために3. 流行期！今すぐ取り組む感染対策～インフルエンザ、ノロウイルス～4. 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランを受けて ～抗菌薬使用動向モニタリングとTDMマニュアル改訂について～	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 院内の耐性菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な耐性菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。2. 抗菌薬の使用状況やTDM実施状況についても定期的に報告を行っており、注意を要する抗菌薬については届出制とし、感染制御部の介入を実施している。3. 感染制御部による院内ラウンドを定期的に行い、標準予防策や感染対策の実施状況の確認、指導を行っている。また、各種感染症サーベイランスも行っており、定期的に報告を行っている。4. マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については、病院運営委員会及び病院連絡会を通じて周知を図るとともに、感染制御部ニュースを発行し各部署へメール配信している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回 (ビデオセミナーを含む)
・ 研修の主な内容： ○コ・メディカル新採用者オリエンテーション（対象：コ・メディカル新採用者） ○静脈注射研修会（対象：新人看護師） ○「薬の知識」研修会（対象：新人看護師） ○薬剤セミナー（医療安全管理セミナー、感染制御セミナー）（対象：全職員）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 1) 医薬品の安全使用のための研修の実施 2) 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び手順書に基づく業務の実施（当該業務の実施の徹底のための措置を含む） 3) 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用（未承認医薬品の使用、適応外使用、禁忌使用）の情報その他の情報収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施 4) 医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知の状況の確認 5) 未承認等の医薬品の使用に関し、使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導およびこれらの結果の共有 6) 4)、5) を適切に実施するための担当者の定め	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。D I ニュース（月 1 回発行）、薬剤部便り（月 1 回発行）、その他必要に応じて通知文書として配布	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年33回
<p>・ 研修の主な内容： ①医療機器の有効性・安全性に関する事項、②医療機器の使用方法に関する事項、③医療機器の保守点検に関する事項、④医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項、⑤医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項等の内容に関する研修を実施する。 全職員対象には医療安全管理セミナー内でME機器講習会として年2回（各5回の同一内容）、定期的開催することとし、前期は基本的な内容、後期はインシデントや安全性情報を基にした内容としている。 使用する部署が限られる医療機器については、当該医療機器に係る医療従事者等を対象に実施している。 なお、研修計画の策定および実施状況については、医療機器安全管理専門委員会にて報告・承認としている。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 機器分類ごとに機種名、製造番号、購入年月日、製造販売業者名等の基本情報とともに使用状況、修理・保守点検記録の保存を行っている。また機器ごとに定期点検間隔、定期点検月を記載した定期点検計画書を策定している。 なお、策定および実施状況については、医療機器安全管理専門委員会にて報告・承認としている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 新規導入機器および未承認等の医療機器のについて ①納入業者は物品購入契約締結後1週間以内に物品契約書、入札内訳書、見積書、カタログおよび添付文書を年度第2係に提出する。 ②新規導入医療機器であるか医療機器安全管理システムの情報を用い、医療機器安全副責任者が判断を行い、導入時研修の必要の有無とともに医療機器安全管理責任者等にメールにて報告する。 ③納入業者は納品までに医療機器マスター登録書および添付文書を年度第2係に提出することで、医療機器安全管理システムに登録し、管理バーコードの発行を行った後、貼付してから納入となる。 ④新規導入医療機器である場合には、導入時研修の実施が必要となるため研修会実施記録、受講対象者名簿、研修会出席者名簿、資料を使用開始までに実施、ME機器センターに提出させる。 ⑤新規導入医療機器の導入状況は年度末の医療安全管理専門委員会にて経営管理課より報告を行う。 2. 情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施について 医療機器の不具合情報や安全性情報等の安全使用のために必要な情報を厚生労働省や県、公的機関、製造販売業者等から一元的に経営管理課内の担当部署で、医療機器と医療材料に関する情報を整理し、収集する。なお、医薬品医療機器総合機構の医療機器情報配信サービス(PMDAメディナビ)に医療機器安全管理責任者等は登録を行い、情報収集に努めている。 これらで得られた情報は院内メールにて、病院長、医療機器安全管理責任者等へ報告するとともに医療機器安全管理システム等にて、対象の医療機器等の使用部署や納入業者を特定し、医療機器安全管理責任者が対応を指示する。また、必要に応じて医療安全管理部や感染制御部、材料部等と連携し対応する。</p>	

対応状況や結果については、医療機器安全管理責任者名でリスクマネージャーおよび関係部署へ院内メール等を用いて周知を行うとともに医療機器安全管理専門委員会にて経営管理課が報告を行う。また、ME機器センター等からの注意喚起やME機器講習会にて周知を行っている。
MDIC取得や各種研修会や講習会への参加も行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>大分大学医学部附属病院医療安全管理体制に関する細則第 3 条において、「医療安全管理責任者を置き、副病院長（安全管理担当）をもって充て、医療安全管理責任者は、医療安全管理部、メディカル・リスクマネジメント委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。」旨規定している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【院内の医薬品使用状況の確認】 1 ヶ月に 1 回使用状況（使用量、6 ヶ月間未使用医薬品等）を確認している。また医薬品安全性情報の発出、医薬品自主回収の場合には、該当医薬品の使用状況を確認している。</p> <p>【各種情報の整理】 医療安全担当主任が収集した使用状況を整理し、必要な情報について DI ニュース（月 1 回発行）、薬剤部便り（月 1 回発行）、通知文書等で周知している。周知状況は各部門・病棟毎に年 1 回確認票を基に確認している。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】 医療安全担当主任は、整理した情報を必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>【未承認等医薬品のリスク検討の有無、処方の妥当性等の確認】 医療安全担当主任は収集した情報を基に、処方の妥当性およびリスク等を確認している。</p> <p>【未承認等医薬品を処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理責任者への報告】 リスクおよび処方の妥当性を検討後、医療安全担当主任は適宜処方変更を医師へ提案している。さらに使用を継続する場合にはクオリティマネジメント室未承認新規医薬品管理部門にて未承認薬の臨床使用について検討を行っている。また医療安全担当主任は検討結果についてリストを作成し、医薬品安全管理責任者へ必要に応じて報告している。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無） ・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師（医療安全担当主任） ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p>	

①平成 28 年 11 月 24 日付で患者や家族に対する説明の内容や、それに対する患者等の反応についても正確かつ客観的な記載を行うよう、診療記録管理責任者・診療記録委員会委員長名で通知を发出。

②平成 29 年 7 月に診療情報管理支援室で「検査等説明書」の記載項目の監査を実施。監査結果は、診療記録委員会、病院運営委員会、各診療科に報告。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

平成 29 年 2 月に診療記録委員会に診療記録監査チームを設置し、診療記録監査を実施。

平成 29 年 3 月に監査結果報告書を作成し、診療記録委員会、病院運営委員会で報告。また、各診療科へ監査結果報告書と個別結果をフィードバック。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（2）名、専任（3）名、兼任（18）名

うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（7）名

うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（1）名

うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（3）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. メディカル・リスクマネジメント委員会（以下「委員会」という）が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務に関すること
2. インシデント報告を分析し、その結果を委員会へ報告すること及び現場へのフィードバックに関すること
3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと
4. 事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況の確認を行うとともに必要な指導を行うこと
5. 事故等について、その原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
6. 医療内容についての相談等に関すること
7. 医療安全に係る連絡調整に関すること
8. 医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営に関すること
9. 医療安全の推進に関すること
10. 医療安全に係る診療の状況の把握及び職員の意識向上の状況の確認に関すること。
11. その他医療安全に関し必要な事項

医師については、平成 32 年 3 月 31 日までの間、専任医師 2 名の配置とし、平成 32 年 4 月以降は専従医師を 1 名配置する。

薬剤師については、平成 32 年 3 月 31 日までの間、専任薬剤師 2 名を配置し、平成 32 年 4 月以降は専従薬剤師を 1 名配置する。

看護師については従前より配置済である。

診療内容及び従事者の医療安全の認識について平時からのモニタリングとして以下の項目を実施している。

- ・手術患者の肺血栓塞栓症の予防対策実施率
- ・手術の予定出血量と実測値の比較
- ・手術の予定手術時間と実際の手術時間の比較
- ・定期的に開催するセミナーでの小テストの実施

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (・無)
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・無)
- ・活動の主な内容：
平成28年度実績なし
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・)
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (・無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・無)
- ・活動の主な内容：
平成28年度実績なし
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・無)

⑨ 監査委員会の設置状況

・無

- ・監査委員会の開催状況：年 0回

- ・活動の主な内容：

平成28年度実績なし

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）

・委員名簿の公表の有無（有・無）

・委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・公表の方法：

大分大学医学部附属病院WEBサイトにて公表している。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
井上 敏郎	大分県立病院	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
岡村 邦彦	岡村法律事務所		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
小野 克重	大分大学		その他学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 9 4 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 1, 6 4 6 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関すること。
 2. 医療事故の判定に関すること。
 3. 医療安全管理に関する改善策に関すること。
 4. 医療安全管理のための職員研修に関すること。
 5. 医事紛争に関すること。
 6. 院内死亡症例の報告について検証・審議し、改善策の立案等を行うこと。
 7. その他医療安全管理上の重要事項に関すること。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無）
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
 - ①. 患者相談窓口の活動の趣旨：「医療安全相談室のご紹介」にて院内掲示済み
患者相談窓口の設置状況：窓口名称 医療安全相談室（医事相談窓口），担当者及び相談に応じる職員：医療安全管理部副部長（医事課医療安全係長がサポートします），責任者：副病院長（安全管理担当），医療安全管理部長，相談に応じる時間帯：月～金 8：30～17：15
 - ②. 医療安全管理マニュアル 総論 第 6（患者相談）に下記のように定めている
 - 1) 医療相談の受付窓口は、医事相談窓口とする。
 - 2) 医療相談があった場合は、原則として医療安全管理部副部長が対応する。
 - 3) 相談者との面談は、他者のいない個室で、職員 2 人以上で対応する。
 - 4) 医療相談に携わる職員は、その相談情報の機密保護について厳に注意し、患者等が不利益を受けることがないよう配慮する。」
 - 5) 医療相談を行った場合は、患者等からの相談・苦情報告書を作成し、病院長まで報告する。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）

<p>・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）</p>
<p>⑭ 職員研修の実施状況</p>
<p>・研修の実施状況 特定機能病院承認要件見直しについてセミナー形式で研修を実施した。 （講師：医療安全管理部長）</p>
<p>⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p>
<p>・研修の実施状況</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>経過措置の適用により詳細は計画書を参照</p> </div>

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページによる情報発信、病院広報誌の発行 (年 4 回) 県内関連病院長連絡会議の開催 (年 1 回)	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 チーム医療 (外来化学療法チーム, 緩和ケア支援チーム, 褥瘡対策チーム, 栄養サポートチーム等) を実践しており, 複数診療科の医師及び多職種のスタッフが連携して対応している	

(様式第8)

分大医総病41号
平成29年10月3日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人大分大学長
開設者名 北野正

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

国立大学附属病院長会議が実施する研修(今後検討予定)に参加させる予定である。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（2）名、専任（3）名、兼任（18）名
うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（7）名
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（1）名
うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（3）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

医師については、平成32年3月31日までの間、専任医師2名配置、平成32年4月以降は専従医師を1名配置する。

薬剤師については、平成30年3月31日までの間、専任薬剤師1名を配置、平成32年3月31日までの間、専任薬剤師2名配置、平成32年4月以降は専従薬剤師を1名配置する。

看護師については従前より配置済である。